

労協連だより

中学校時代から続けている「衣替え」の行事(夏冬服の大移動)を終え、汗をかきながらの冬支度・厚着の毎日である。危惧した「武力報復」の「アフガン攻撃」が開始された。如何なる大義名分があろうとも、血で血を洗う行為は、断じて許されない。始まってしまった「報復」という名の「戦争」を食い止めるために、何をすべきなのか。時あたかもICA総会が、隣国の韓国・ソウルで開催されている。日本労協連からも17名という日本の協同組合陣営の中では3番目の代表・参加者を送り出している。2度の世界大戦下でも分裂を回避し、平和祈念の「虹」をシンボルとするICA・協同組合が、今こそ声を上げ、具体的な行動を強める時期だと思う。競争・摩擦・効率が激しい生存条件の劣化を及ぼそうとしている今、これに対抗する社会創造・事業理念を協同組合陣営として確立し、実践するときである。

すっかり「テロ国会」に染まった臨時国会に向け、10/4・10/11の2波の要請行動が組まれた。第1波は、センター事業団の首都圏と全国の事業本部長などを中心に約50人、第2波は連合会理事を中心に12名が、衆議院を中心に、地元議員に要請した。国会会期中ということもあり、直接議員に会えた機会は少なかったが、政策秘書をはじめ、予想以上に話し込み、アドバイスや激励を受けられたことは、法制化運動に大きな弾みをつけた。あつた議員数は200名を超えた。その数以上に、各地の実践化が国会に

古村伸宏 (日本労協連・事務局長)

終結し、自ら法制化の訴えを行ったことで、この運動への全組合員の参加が加速していきだろう。

もう一方で、法制化の運動を支える「全国縦断 市民発『仕事おこしシンポ』」の企画も、各地で加速してきている。既にNPOや商店街、労働組合など発言者が固まってきた10/28の神奈川・藤沢を皮切りに、道南ネットが中心になり、労働組合・自治体・NPO・若手経営者・中同協・大学など、幅広い参加で盛り上がりを見せている12/8北海道・函館。12/2法制化市民会議の立ち上げと、来年2/11の縦断シンポをはさみ、各県(奈良11/18、京都1/26)でのシンポが企画されている関西。その他東京(12/15)・九州・福岡(2/3)など、仕事おこしと法制化を結ぶ、幅広いネットワークの形成を予兆する地域レベルでの努力が始まっている。

連合会理事会では、こうした総合的な発展を期した激動の流れの中で、このまま進めば沈没を余儀なくされる事態や組織も直視し、今こそ「協同労働の協同組合」組織に発展・転化すべき時期と位置づけ、連合会あがての改革を急いでいる。この間の発展の突破口となっている地域福祉事業に取り組めていない組織や、財政的に困難な状況を抱えている組織、「協同労働」への目的意識的な接近が不十分な組織など、憂慮すべき事態も足元に横たわっている。また、連合会そのものの存在意義や役割、全国的な連帯のあり方にも及び改革のテーマである。まず、先進組織の実態

分析から、全組織の健康診断とでも言うべき個別評価と戦略の設定をなんとしても年内中にやりきり、具体的な行動をはじめなければならない。が、それにしてもスタッフが連合会には圧倒的に不足している。一人でやれることの限界も含め、連合・連帯の水準が問われているのだと思う。

高齢協の全国連合会結成(11/3)も間近に迫ってきた。住民・市民に協同・協同労働を

呼びかけ、まちづくり・仕事おこしが爆発する時代は間違いなく近づいている。労協連20年の歴史を土台に、狭い殻を破る決心・決意が一人一人に突きつけられている。国民総動員の「成長」一辺倒の時代は終わろうとしている。「他者への配慮」を怠ることのない、協同と自主・自立の事業・運動が、身近な暮らしの中からも湧き上がる、そんな自己改革を目指し、寒空の中で汗をかこう。

研究所たより

研究所は今、事務所内の模様変えで大騒ぎだ。今ごろ模様変えをする理由は、一つには昨年より移転した事務所の一部を、大家さんの事情でお返しすることになったため、もう一つは、入れ替わった事務局メンバーのため、机等の配置を変えなければならないため、である。

大量の書籍や雑誌・調査資料等を動かして、改めて研究所の10年の歴史を思う。積み重ねてきた研究会の資料や、海外調査の資料・出版物などの重みでスチール棚がたわむ。歴代の理事長や菅野さん、坂林さん、会員の方々が残したものをどのように受け継ぎ、発展させていくか、を新しい体制で考えていきたい。

「研究所たより」のメーリングリスト版を復活させた。坂林さんが50号以上続けていたものの継承である。いろいろご意見はあろうが、協同総研のような組織では、今後インターネットの活用はますます必要になるだろう。月に一度の所報や、研究会だけでなく、もっと細かい情報を会員の皆さんに提供していきたい。e-mailのアドレスをお持ちで、ま

だメーリングリストに参加していない方は、是非ご連絡を。

そのメーリングリストでも話題になったが、「協同の発見」のバックナンバーには、たくさんの情報が詰まっている。本来、研究所のホームページで紹介していくことになっていたが、こここのところ作業が滞っている。研究所の財産は、出来る限り公開していけるよう努力したい。

10月4日と10日に協同労働の協同組合法制定に向けた労協連の国会行動が行われた。延べ約200人以上の国会議員へ要請が行われ、法制化運動も具体的な法制定実現のために何をするか?という段階に入った。関西や九州でも市民会議の立ち上げの準備が始まり、より広い国民的・市民的な仕事おこしの運動として、世論を盛り上げていかなければならない。

「協同の発見」誌もリニューアルを進めつつある。海外情報や翻訳も充実させていきたいが、地域での協同の取り組みの活動や意見をもっと取り上げていく。会員の皆さんのご協力をお願いしたい。(菊地 謙)